

奈良県下市町方言の 世代間の伝承について

山田 葉月

(文16-775 国語国文学専修 国語学コース4年)

1. 三世代伝承調査の概要

『奈良県のことば』俚言の語彙集に収録された全940語を
発表者を含む三世代、計4名に対し、認知しているか否かを
調査し、伝承率を調べた(4名の関係図は図2に表す)。

また語を意味によって分類・整理したシソーラス(類義語集)、
『分類語彙表』を使用し、品詞と意味分野により伝承率の
差が生じる要因を調査した。

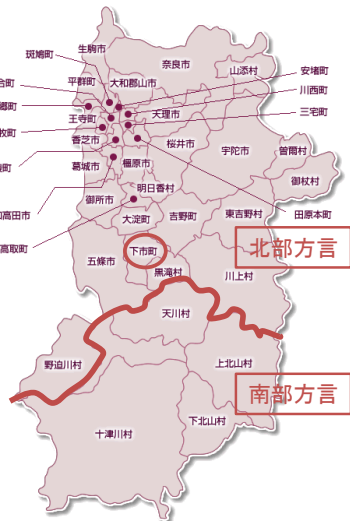


図1 奈良県方言区画図

(地図の出典) 奈良県ホームページ
http://www.pref.nara.jp/3605.htm

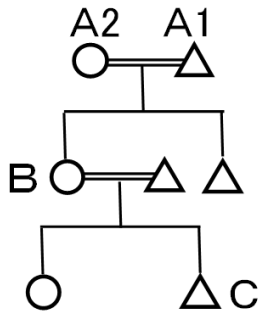


図2 三世代間伝承調査・
話者関係図

A1…生まれも育ちも下市、82歳、女性
A2…9歳から下市に移住、83歳、男性
B…18歳まで下市、23歳まで福井、
26まで京都、再び下市、52歳、男性
C…生まれも育ちも下市、22歳、女性

表1 『分類語彙表』による使用語数と共有率

		A1		A2		B		C			
		使用語数	共有率	使用語数	共有率	使用語数	共有率	使用語数	共有率	共有率	
体の類	①	44	90.9%	40	60.0%	24	54.5%	12	27.3%	30.0%	50.0%
	②	30	66.7%	20	35.0%	7	23.3%	4	13.3%	20.0%	57.1%
	③	57	66.7%	38	55.3%	21	36.8%	11	19.3%	28.9%	52.4%
	④	48	75.0%	36	27.8%	10	20.8%	3	6.3%	8.3%	30.0%
	⑤	65	89.2%	58	41.4%	24	36.9%	9	13.8%	15.5%	37.5%
用の類	①	8	100.0%	8	50.0%	4	50.0%	2	25.0%	25.0%	50.0%
	③	74	83.8%	62	67.7%	42	56.8%	29	39.2%	46.8%	69.0%
	⑤	7	71.4%	5	40.0%	2	28.6%	0	0.0%	0.0%	0.0%
相の類	①	14	85.7%	12	83.3%	10	71.4%	8	57.1%	66.7%	80.0%
	③	20	95.0%	19	63.2%	12	60.0%	10	50.0%	52.6%	83.3%
	⑤	9	88.9%	8	62.5%	5	55.6%	3	33.3%	37.5%	60.0%
合計		376	81.4%	306	52.6%	161	42.8%	91	24.2%	29.7%	56.5%

『分類語彙表』の意味分類
 体の類=名詞 用の類=動詞 相の類=形容詞・形容動詞・副詞・連体詞
 ①抽象的關係 ②人間活動の主体 ③人間活動—精神および行為 ④生産物および用具 ⑤自然物および自然現象

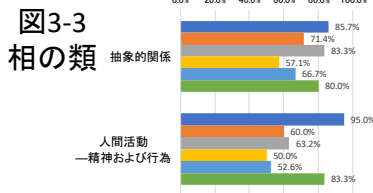
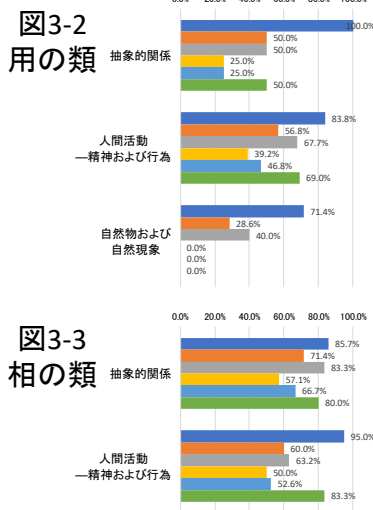
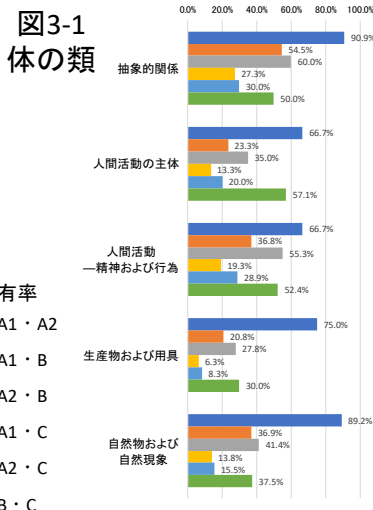


図3 『分類語彙表』による
世代間共有率

表2 <奈良県俚言>の三世代間伝承パターン

	A1	A2	B	C	体の類					用の類			相の類			合計
					①	②	③	④	⑤	①	③	⑤	①	③	⑤	
I	○	○	○	○	10	3	10	3	9	2	27	0	8	10	3	85
II	○	○	○	×	11	3	8	7	14	2	11	2	2	2	2	64
III	○	○	×	×	19	14	20	26	35	4	23	3	2	7	3	156
IV	○	×	○	○	2	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	6
V	○	×	○	×	0	0	2	0	1	0	2	0	0	0	0	5
VI	○	×	×	×	2	9	16	12	6	0	9	2	2	1	1	61
合計(A1使用語数)					44	30	57	48	65	8	74	7	14	20	9	376

具体例

- I : アンコ(こたつ)、ゲンジ(クワガタムシ)、ケツタイ(奇妙な)
- II : マトウ(弁償する)、ハシカイ(すばしっこい)、シワイ(けちな)
- III : キンバル(ふくれる)、セスイ(利の薄い)、ヒスイ(腐って酸っぱい)
- IV : ヨコッチョ(横)、チョカ(軽率)、ノタクリマウル(苦しんではい回る)
- V : ケツワリ(断念)、メボ(ものもらい)、セッターロー(背負う)
- VI : カブリ(道路のくぼみ)、ソンジョサン(精霊)、ケッスル(便秘する)

2. 地域内伝承調査の概要

以上の調査を考慮し、下市町出身者、または現在下市町に住んでいる14歳から72歳までの15名に対し、全71問のアンケートを実施し、その結果を考察した。アンケートの問いは【1】いつでも使う、【2】地元の人は家族と話す時に使う、【3】言わないが知っている、【4】言わないし知らないの4択である。今回は回答番号1,2,3を方言の認知度とし、それぞれ品詞で平均と割合を算出した。

表3 地域内品詞別平均伝承率

	名詞		動詞		形容詞		形容動詞		副詞		接続詞		区分なし	
	平均	%	平均	%	平均	%	平均	%	平均	%	平均	%	平均	%
高年層3名	15.3	72.9	12.0	92.3	85.5	85.5	2.7	90.0	6.3	70.0	3.7	92.5	8.3	83.0
中年層4名	14.5	69.0	10.7	82.3	81.8	81.8	3.0	100	6.5	72.2	3.3	82.5	8.0	80.0
若年層5名	8.8	41.9	7.5	57.7	50.9	50.9	1.8	60.0	5.0	55.6	2.8	70.0	4.2	42.0
最若年層3名	8.4	40.0	5.0	38.5	42.7	42.7	2.3	76.7	4.7	52.2	3.3	82.5	5.0	50.0
全	21		13		11		3		9		4		10	

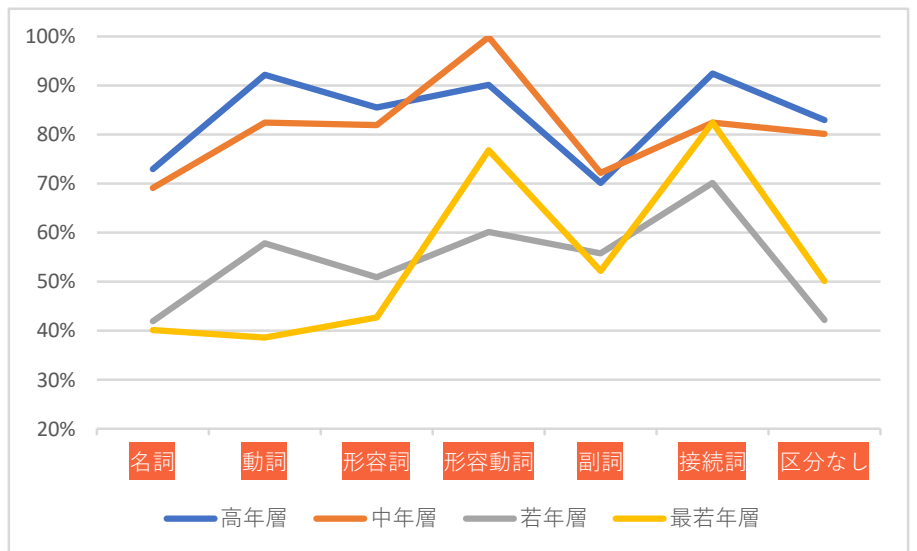


図4 地域内品詞別平均伝承率

まとめ

本研究では奈良県下市町の方言について、三世代間における方言伝承についてのアンケートと地域内での方言伝承についてのアンケートを実施することで、品詞によって伝承率の変化がみられるのかということを検討した。

その結果、品詞によって伝承率の差がみられ、それは時代や物の変化、または日常生活における使用頻度に起因し、その傾向は下市町全体に見受けられることが分かった。

また方言の伝承は家族間で行われることが主であり、それぞれの家庭により伝承される品詞内の細かい言葉は変化するので、一つ一つの家庭を調査すれば、その家族内の方言伝承がより明確にみられると考えられる。

<参考文献>

- 国立国語研究所編(2004)『分類語彙表 増補改訂版』大日本図書
- 下市町史編集委員会編(1958)『大和下市史』下市町教育委員会
- 西宮一民(1982)『奈良県の方言』『講座方言学7 近畿地方の方言』国書刊行会
- 中井精一(2003)『奈良県のことば』明治書院